

- 「応急処置」
 ミスト、蒸気、スプレーの吸入をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 環境への放出を避けること。
 火災の場合には適切な消火方法をとること。(粉末、炭酸ガス、泡など)
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 暴露またはその懸念がある場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は直ちに医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合、直ちに、全ての汚染された衣類を脱いで取り除き、
 多量の水と石鹸で洗うこと。
 汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
 飲み込んだ場合、無理して吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
 「保管(貯蔵)」
 容器を密閉して涼しい所/換気のよい場所で保管すること。施錠して保管すること。
 子供の手の届かないところに保管すること。
 「廃棄」
 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一化学物質・混合物の区別 混合物
 化学名または一般名 ポリオレフィン系樹脂塗料
 成分情報

成分番号	内容成分 (化学名または一般名)	含有量 [wt%]	化学式	CAS No	既存化学 物質番号	安衛法別表第9 通知物質番号	PRTR法 政令番号
1	変性ポリオレフィン系樹脂	5-10	特定できず	-	-	-	対象外
2	メチルシクロヘキサン	80-90	C ₇ H ₁₄	108-87-2	3-2230	576	対象外
3	メチルエチルケトン	5-10	C ₄ H ₈ O	78-93-3	2-542	570	対象外

4. 応急措置

- 吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は医師の手当て、診断を受けること。
 皮膚に付着した場合： 皮膚を速やかに洗浄すること。
 多量の石けん水で洗うこと。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
 皮膚刺激があれば医師の診断、手当てを受けること。
 眼に入った場合： 水で数分間、注意深く洗うこと。
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が継続する場合、医師の診断、手当を受けること。
 飲み込んだ場合： 水で口の中をよくすすぐこと。
 この液体は肺に入ると化学性肺炎の危険が増すので、吐き出させてはならない。
 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
 予想される急性症状 吸入した場合：咳、息切れ、めまい、し眠、頭痛。
 及び遅発性症状： 皮膚に接触した場合：皮膚の乾燥、発赤。
 眼に入った場合：発赤、痛み、かすみ眼。
 飲み込んだ場合：胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢、咳、めまい、し眠、頭痛。
 過度の暴露：麻酔作用、頭痛、めまい、視野狭窄、吐き気、下痢及び喪失
 最も重要な兆候及び症状： 有用な情報なし。
 応急処置をする者の保護： 火気に注意する。
 救助者は状況に応じて適切な眼・皮膚の保護具・有機溶剤用の毒用のマスクを着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤
 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤
 使ってはならない消火剤 火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。
 特有の危険有害性 極めて燃えやすい。熱、火花、火災で容易に発火する。
 燃焼の際は、刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生する恐れがある。
 加熱により容器が爆発するおそれがある。
 特有の消火方法 引火性の高い液体および蒸気。
 引火点が極めて低い。
 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
 消火を行う者の保護 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏えい区域として隔離する。
 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
 適切な保護衣を着けていない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
 風上に溜まる。風下の人を避難させ、漏出場所から人を遠ざけること。
 低地から離れる。

環境に対する注意事項
 密閉された場所に立ち入る前に換気する。
 排水溝、下水溝、河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
 環境中に放出してはならない。

回収、中和 少量の場合：
 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
 大量の場合：
 吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止口語を用いる。
 盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
 散水は蒸気濃度を低下させる。しかし密閉された場所では燃焼を抑えることができない
 おそれがある。

封じ込めおよび浄化の方法
 危険でなければ漏れを止める。
 漏出物を取り扱う際、用いる全ての設備は接地する。
 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

二次災害の防止
 付近の全ての発火源を速やかに取り除くこと。(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)
 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い
 技術的対策：
 局所排気・全体換気：
 安全取扱注意事項：
 「8.ばく露防止および保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
 「8.ばく露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体排気を行う。
 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取り扱いをしてはならない。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 眼との接触を避けること。
 接触、吸入または飲み込まないこと。
 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医者診断を受けること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 静電気対策のため、設備等は接地し、電気機具類は防爆型(安全増型)のものとすること。
 蒸気の発生する場所には局所排気装置を設けること。
 冬季の厳寒時には増粘し樹脂が析出する可能性がある。このような場合は、50℃以内で
 加温溶解させてご使用ください。
 品質保証期限内にご使用して下さい。

保管
 技術的対策
 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりや不燃材料で作ること。
 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、
 かつ天井を設けないこと。
 保管場所の床は床面に水が浸透し、又は浸透しない構造とすること。保管場所の床は、
 危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを
 設けること。
 指定数量以上の危険物は、貯蔵所以外の場所でこれを貯蔵してはならない。

混触禁止物質
 保管条件
 「10.安定性及び反応性」を参照。
 屋外放置厳禁。
 直射日光を避け、5~40℃の換気の良い場所に保管し、着火源、高温物等を近づけない。
 しっかりと蓋をして貯蔵する。
 酸性物質他混触禁止物質と共存させない。
 施錠して保管する。子供の手の届かないところへ保管する。

容器包装材料
 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

各成分管理濃度、許容濃度

成分 番号	内容成分 (化学名または一般名)	管理濃度 [ppm]	許容濃度[ppm]	
			日本産業衛生学会	ACGIH(TWA)
1	変性ポリオレフィン樹脂	設定されていない	設定されていない	設定されていない
2	メチルシクロヘキサン	設定されていない	400	400
3	メチルエチルケトン	200	200	200

設備対策
 取り扱い設備は防爆型を使用すること
 取扱場所及び周辺の火気、静電気、衝撃火花などの着火源の存在を厳禁すること。
 液体の輸送、汲み取り、攪拌等の設備についてはアースを取るよう設備すること。
 静電気対策のため、設備は接地し、電気機具類は防爆型のものとすること。
 蒸気の発生する場所には局所排気装置を設けること。

保護具 呼吸器の保護具
 手の保護具
 眼の保護具
 皮膚及び身体の保護具
 防毒マスク(有機ガス用)、濃度が高い場合には送気マスク、空気呼吸器
 耐油性(不浸透性)の手袋
 保護眼鏡、ゴーグルまたは防災面
 長靴、前掛け(静電気防止対策用を用いる)、保護服など。
 衛生対策
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観、形状、色など	淡黄色微濁液体
臭い	製品は溶剤臭、乾燥被膜は樹脂臭を有する。
pH	データなし
比重	0.79
沸点、初留点及び沸騰範囲	94.7 °C
引火点	-21.8 °C
発火点	258 °C以上 (メチルシクロヘキサン)
爆発限界	下限 1.2vol%、 上限 6.7vol% (メチルシクロヘキサン) 下限 1.8vol%、 上限 11.5vol% (メチルエチルケトン)
溶解度	水不溶、芳香族系溶剤可溶

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の取り扱いでは安定である。
危険有害反応可能性	通常では反応性はない。強酸化剤、塩基性物質、還元剤と反応する。
避けるべき条件	加熱、高温
混触危険物質	酸化剤、強酸、強アルカリ、還元剤
危険有害な分解生成物	加熱分解、燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11. 有害性情報

製品としての安全性試験は行っていない。

○各成分の健康有害性情報

GHS分類		組 成 物	成分番号2	成分番号3
			メチルシクロヘキサン	メチルエチルケトン
健	急性毒性 (経口)		区分4	区分5
	急性毒性 (経皮)		区分外	区分外
	急性毒性 (吸入、ガス)		分類対象外	分類対象外
	急性毒性 (吸入、蒸気)		区分外	区分5
	急性毒性 (吸入、粉塵)		分類できない	分類対象外
	急性毒性 (吸入、ミスト)		分類できない	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性		区分3	区分2
	眼に対する重篤な損傷性、眼刺激性		区分2B	区分2B
	呼吸器感作性		分類できない	分類できない
	皮膚感作性		分類できない	分類できない
康	生殖細胞変異原性		分類できない	区分外
	発ガン性		分類できない	区分外
	生殖毒性		分類できない	区分外
	特定標的臓器/全身毒性	単回暴露	区分3 (麻酔作用)	区分1 (中枢神経) 区分2 (腎臓) 区分3 (気道刺激性)
		反復暴露	分類できない	区分1 (中枢神経、末梢神経)
	吸引性呼吸器有害性		区分1	区分2

12. 環境影響情報

製品としての安全性試験は行っていない。

○各成分 (溶剤) の環境影響情報

GHS分類		組 成 物	成分番号2	成分番号3
			メチルシクロヘキサン	メチルエチルケトン
環 境	水生環境急性有害性		区分2	区分外
	水生環境慢性有害性		区分2	区分外

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装： 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性・有害性を十分告知の上、処理を委託する。容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号 (UN No.) : 1263 (UN1263)
 品名 (Proper Shipping Name) : 塗料 (PAINT)
 クラス (Class) : 3 (引火性液体) (3 (Flammable liquids))
 容器等級 (Packing Group) : II (II)
 緊急時対応措置指針番号 : 128

国際規制

海上規制情報 IMOの規定に従う。
 Marine Pollutant : Not applicable
 航空規制情報 I C O / I A T Aの規定に従う。

国内規制

陸上規制情報 消防法、道路法に従う。
 海上規制情報 船舶安全法に従う。
 海洋汚染物質 : 非該当
 航空規制情報 航空法に従う。

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。
 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に進行。
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

消防法 :	危険物 第2条	第4類引火性液体	第1石油類 (非水溶性液体)	危険等級II
労働安全衛生法 :	施行令 第18条2	名称を通知すべき有害物	メチルシクロヘキサン、メチルエチルケトン	
	施行令 第18条	名称を表示すべき有害物	メチルエチルケトン	
	施行令 別表第1	危険物・引火性のもの		
	有機溶剤中毒予防規則	第2種有機溶剤等		
	特定化学物質障害予防規則	非該当	※改正 (H26/11/1 施行) により追加された特定化学物質まで	
化学物質管理促進法 (P R T R法) :		非該当		
悪臭防止法 :	施行令第1条	非該当		
大気汚染防止法 :	揮発性有機化合物	メチルシクロヘキサン、メチルエチルケトン		
海洋汚染防止法 :	有害液体物質Y類物質	メチルシクロヘキサン		
	Z類物質	メチルエチルケトン		
船舶安全法 :	危険則3条6	引火性液体類		
港則法 :	施行規則12条	危険物 (引火性液体類)		
航空法 :	施行規則第194条	引火性液体		

16. その他の情報

参考文献

- 1) 溶剤ポケットブック1997 (オーム社)
- 2) GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック改訂第2版 (日本塗料工業会)
- 3) 製品評価技術基盤機構 (N I T E)
- 4) 職場のあんぜんサイト : GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報
- 5) 原料メーカーMSDS 等

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改定されることがあります。
 記載内容は現時点入手できた資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に
 関しては如何なる保証をなすものではありません。
 全ての化学製品には、未知の危険性や有害性があり得るため、お取り扱いには細心の注意が必要です。
 本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは保証できません。
 記載事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、新たに用途/用法に適した安全策を
 ご実施の上、お取り扱い願います。